

港区立赤羽小学校
令和5年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや伝えたいことを明確にし、相手に伝わるように書き表す力 ・既習の漢字正しく読んだり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を順序立てて書いたり、自分の考えを文章で表現したり、内容の中心が何かを考えて適切に書いたりすることができない「書くこと」に課題がある。 ・学年相応の平仮名・片仮名・漢字の読み書きが難しい児童が1～2割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記や短作文等を日常的に行い、書く活動を積み重ねていくことで文章を書く抵抗感を軽減させる。低学年は言葉集め・中学年は国語に限らず振り返り等書く活動を重ねる・高学年は構成メモを活用して文章を書くなど、書き方の素地を作ること、自分の考えや伝えたいことを書き表す力を向上させる。 ・学年相応の読み書きが身に付くよう、進出漢字は2学期中旬までに学習し終え、漢字検定に向けての学習とともに復習も繰り返し行うことで、定着を図る。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の見方・考え方を働かせ、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ・相互関連を考察したり、社会的な課題を追究したり把握したりする力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取り方が分からず、正しく読み取れていない。また、資料を比較したり、統合したり、分類したりして、考察を導き出すことが難しい。 ・基本的な知識の定着が確実でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取り方を全体で確認し、資料の見方について学習する。 ・学年が上がるにつれて、自分で調べるために必要な資料を探し、複数の資料から考察を考えられるように指導をする。 ・社会の基本的な知識(都道府県・地図記号等)を確実に定着させるために、繰り返し小テスト等を行う。

算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形に進んで関わり、感覚を豊かにするとともに、数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形領域の正答率が低く、名称や基本的な性質を理解できていない。 ・基本的な計算は正確にできるが、文章題は題意を正しく理解せず立式の誤答がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入の際に、前年度の既習内容を確認する時間を設ける。また、具体物を用いて考える、作図の時間を増やす、タブレット端末を用いて図形を操作する活動を繰り返し、図形を構成する要素やそれらの位置に着目して図形の性質を理解させる。 ・文章題では、自分の考えを式や図、文章で表す時間を確保し、題意への理解に繋げる。また、ペア・グループ・全体等の話し合い活動を工夫し、理解を深められるようにする。また、学習の振り返りを行い、問題解決を実感させ、生活や学習に活用しようという意欲を向上させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関心を持ち、見通しを持って観察実験を行い、その結果に基づき考察し結論を導き出すなどして問題を解決する能力を身に付ける。 ・実験観察器具の使い方等、基本的な技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を基に考察する力が弱い。 ・予想を立てる際に、既習事項や生活経験等を踏まえた根拠を持った理由が立てられない。 ・実験観察器具正しく扱うことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験前の予想から考察までの一連の流れを大切に、「個で考える⇒グループで考える⇒全体で検討し共有する」授業を行う。実験結果を丁寧に分析する時間を取り、どのようなことが分かったのか、どのように考えたのか自分の言葉でまとめ、全員で検討し確認する。 ・児童に身近な現象を導入時の活動に取り入れたりICTを活用したりする等、導入時の学習活動を工夫することにより、既習事項や生活経験と結びついた予想を考えさせ、見通しをもって学習ができるようにする。 ・実験観察器具の使い方を理解させ、正しく操作できるように繰り返し指導する。また、どの場面を使うことが適切かを提示したり考えさせたりする場面を多く設定する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、その特徴やよさに気づき、自分自身や自分との生活で考え表現しようとする資質・能力を養う。 ・友達や異学年の児童、地域の方々など様々な立場の人と進んで関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭工事が続いている等のため、学習をするための校庭や学級園の環境が整っておらず、児童一人一人が主体的に学習を進めるのが難しい状況にある。(アサガオの観察、野菜の栽培など) ・異学年や地域との交流をうまく進めることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の変化や成長の様子に関心をもつことのできるよう、屋上校庭等の空いているスペースを活用して植物を育てる活動を行ったり、実際に芝公園に行ったりすることで生命への親しみや大切にしようとする心を育てる。 ・学校探検や学校行事を通して、異学年交流及び赤羽幼稚園をはじめとする近隣の幼稚園や地域学校協働本部を活用し地域の方々との交流を図り、コミュニケーション能力や対話の能力を身に付ける。 ・地域に関わる活動を通して、生活は様々な人や場所と関わっていることに気づき、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活しようとする態度を育む。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現を考えて、表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音楽を味わって聴くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽活動に興味をもち、意欲的に学習に向かう児童が多い一方で、演奏や歌唱の能力にはバラつきがあり、個別の支援を要する児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学びに向かう姿を大切に、スモールステップで学習を進める。また、器楽においては練習時間を十分に確保することで、個別の支援の時間をとる。できたことをほめたり、友達同士での教え合いをしたりすることで、自信をもたせる。音楽会を通して、どの学年も学びを高めた。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり、表したりする。造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などから見方や感じ方を深めたりする。つくりだす喜びを味わうとともに豊かな情操を培う。	・全体的に意欲的に取り組んでいる一方で自分の表したいイメージを持つことができない児童や表したいことをどうやって表したらいいかわからない児童がいる。	・表し方をさらに工夫して表せるように、表現方法に応じた材料や用具の活用を提案する。 ・創意工夫する時間を多く設ける。 ・今までの経験を生かした題材を設定し、技能のレベルアップを上げる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、自分の生活に活用する力	・授業内の学習だけで完結しているため、学習を家庭へと繋げられる児童が少ない。 ・実習を行う際の指示や手順を聞いて、活動に繋げる際に情報の取りこぼしが目立ち、次の活動が分からず立ち止まることが多く見える。	・学習したことを家庭生活で生かせる学習のサイクルを考えて指導し、生活に活用する力を向上させる。 ・調理や裁縫について、手順や留意点を図・写真・動画等で提示して段階的に実践させたり、児童が教え合う活動を設定したりし、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・運動に親しみ、健康の保持増進と体力向上をめざし、主体的に取り組む力	・工事により校庭が使用できないため、児童が運動する機会が少ないので、意図的に運動する機会を作り、児童が主体的に運動に取り組むようにする必要がある。 ・新体力テストにおいて、「ソフトボール投げ」「20m シャトルラン」が全学年共通して東京都平均を下回る傾向があった。また、学年が上がるに連れて「反復横跳び」や「50m 走」等、平均より下回る種目が増える傾向があった。	・休み時間に体全体を使う遊びの敢行、体力向上タイム(短・長縄跳び)、体育的行事を通して、日常から運動に取り組むことができる環境を整え、持久力、調整力等に重点を置き体力の向上に取り組む。 ・教材教具を工夫して運動の楽しさを味わわせるとともに、学習カードやタブレット端末を活用した動画で自分自身の技能の高まりを確認できるようにし、主体的に取り組む力を向上させる。 ・低学年から系統的に「ボール投げ」の運動に取り組む。

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・人との関わりに必要な自己表現力や国際社会に対応するためのコミュニケーション能力の基礎となる力を身に付ける。	・どの学年も、国際の授業を楽しんではいるが、英語に対する苦手意識や失敗への恐怖心等から積極的に英語でのコミュニケーションを図れない児童も見られる。 ・高学年においては、単語だけでなく文章で自分の思いを書いたり伝えたりできる力をより向上させていきたい。	・NT と連携し、児童が楽しめる歌やゲームなどのアクティビティを引き続き取り入れ、授業へ消極的な児童にも目を向けながら、NTと児童、また児童間での積極的な発話を促していく。 ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の言語活動を1～6年の発達段階に合わせて計画的に指導し、会話を多く取り入れながらコミュニケーションの力を向上させる。 ・タブレット端末やピクチャーディクショナリーを活用しながら児童が安心して原稿を書けるように繰り返し指導していく。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自己を見つめ、物事を多面的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、実践力を育む。	・道徳の学習には進んで取り組むことができているが、学んだことを自分の生活に生かしている児童が少ない。 ・意欲的に発表する力はあるが、友達の意見を聞いて、考えを深めることに課題がある。	・授業の中で必ず自分自身の生活に立ち返らせる声掛けをする。 ・発表の際には、友達の考えをよく聞くように声を掛け、互いの考えや価値観を共有し、よりよい自分の姿を考えられるようにする。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する力を身に付ける。	・自分の考えや意見を伝えることはできるが、相手意識をもって伝えたり、折り合いをつけて話し合ったりすることに課題がある。 ・話し合っただけの決めたことを実践することはできるが、より主体的に取り組めるようになるとうい。	・計画的に話し合い活動を実施し、少数の意見も大切にしながら合意形成することや、決めたことを実践して振り返り次回に生かす経験を積みませ、集団や自己の生活上の課題を解決する力を育む。 ・学校行事では、児童に目標をもたせ、見通しをもって活動に取り組ませるとともに、振り返りの時間を設定し、達成感や自己有用感を高めたり、互いのよさに気付かせたりする。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・体験活動などを通して、課題を設定し、課題意識を持つ力を付ける。 ・比較したり、分類したり、関連付けたりして収集した情報を整理したり分析したりする力を付ける。	・課題意識をもつ力が十分ではない。 ・集めた情報を正しく整理したり、まとめたりする力に課題がある。 ・特にまとめる活動に関しては個人差が大きい	・児童が探究的に取り組めるよう、ビオトープや学校の特徴、地域の特徴を生かした課題設定を行う。 ・調べ方や発表の方法を発達段階に応じて高めていく。タブレット端末を活用し、調べたり発表したりできるようにする。 ・確かな知識を得るために、思考ツールを活用し、考えるプロセスを大切にする。

